

2022年7月21日～22日の2日間、全国から4高校を招いて、東京の国連大学で第7回全国ユース環境活動発表大会に参加した高校生などを対象にフォローアップ研修を実施しました。参加した高校生は、国連主催の国際会議と研修に参加し、自分たちの活動と世界が抱える課題とのつながりについて学びました。



愛媛大学附属高等学校
理科部 プラガールズ



群馬県立尾瀬高等学校
理科部



晃華学園高等学校
Banana to The Futures



石川県立金沢泉丘高等学校

1 第3回 パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議 (主催：国連経済社会局、国連気候変動枠組条約事務局、ホスト：環境省、パートナー：国連大学)

国連でSDGsを推進する国連経済社会局(UNDESA)と、パリ協定を推進する国連気候変動枠組条約事務局(UNFCCC)が主催する会議に参加しました。この会議には、世界各国から対面とオンラインで130名以上の専門家が登壇し2,000人以上が参加しました。山口壮環境大臣(当時)をはじめ各国閣僚、国連機関・組織のトップ、ビジネスリーダー、科学者、ユースの代表らが、相互に関連する気候変動対策とSDGsの課題を相乗的に解決する方策について議論しました。議論の成果は、9月の国連総会、11月の国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)、12月の生物多様性条約第15回締約国会議(CBD COP15)、2023年9月のSDGサミットや、その他の主要な国際会議への重要な知見としてサマリーにまとめられる予定です。会議に参加した高校生は、同時通訳機を使って、国際社会における最新の知見を学びました。



2 全国ユース環境活動発表大会 フォローアップ研修 (主催：全国ユース環境活動発表大会実行委員会、協力：GEOC)

4校の活動発表やグループワークなどのフォローアップ研修を実施しました。この研修には、国連大学サステナビリティ高等研究所で研究を行う大学院生も参加し、自身がサステナビリティ分野の研究に関心をもったきっかけや、現在の研究内容を共有しました。また、グループワークでは、それぞれの活動の改善点や、今後連携すべきパートナーについて、高校生同士が積極的に意見交換を行い、最後に今後の活動へのアイデアをまとめ発表しました。

発表する国連大学のジョセフィン・ヴァウダー・カイピスさん▶



参加高校生の感想 (抜粋)

愛媛大学附属高等学校 理科部 プラガールズ

「世界をよくするために必要なのは中期的・短期的かつ具体的な目標を定めること」という言葉が印象に残りました。パリ協定6条についての理解を特に深めることが出来ました「理想主義になってはならない」という言葉が印象に残りました。今回の研修のようなお互いの活動について意見を交わすことが、シナジーを生み出す大切な機会になることがわかりました。



群馬県立尾瀬高等学校 理科部

ただ気候危機を解決するだけでなく、その行動が他の経済活動などにも利益をもたらすものであることが国際的な問題で多様なステークホルダーが混在する問題を解決するためには大切だと感じました。どの学校も活動を色々なところを巻き込んで行っていて、学校の中だけで完結させるのではなく、どう周りを巻き込んでいくのが大切だと感じました。



晃華学園高等学校 Banana to The Futures

一つの視点で考えるのではなく、多数の意見を取り入れることで、今回の会合のテーマであるシナジーが生まれるのだと考えました。他校の方々も私たちと同じように、どうしたら多くの方々に活動を知っていただけるかということが課題であることがわかりました。グループワークにおいて、積極的に相互にフィードバックしあい、環境に配慮した行動への思いを共有し、有意義な時間となりました。



石川県立金沢泉丘高等学校

漠然としたSDGsや気候変動のイメージが明確になって、相互作用させることがそれらの問題を解決することに繋がるとわかった。今まであまり関わったことの無い分野の研究を同世代がしていることに感動した。研究内容は違えど、方針や進め方は参考になる部分が多く、有意義な時間を過ごせた。二日間で学んだことを少しでも多くの人に伝えることができればいいと思う。

